甲　第　号

山中　彰一郎　学位請求論文

審　査　要　旨

奈　良　県　立　医　科　大　学

論 文 審 査 の 要 旨 及 び 担 当 者

論文審査担当者	委員長	教授	藤本　清秀
	委員	教授	田中　利洋
	委員（指導教員）	教授	木村　文則

主論文

The Comparison of Three Predictive Indexes to Discriminate Malignant Ovarian Tumors from Benign Ovarian Endometrioma: The Characteristics and Efficacy

卵巣悪性腫瘍と良性内膜症性嚢胞の鑑別における各予測インデックスの特徴と有用性の比較

Shoichiro Yamanaka, Naoki Kawahara, Ryuji Kawaguchi, Keita Waki, Tomoka Maehana, Yosuke Fukui, Ryuta Miyake, Yuki Yamada, Hiroshi Kobayashi, Fuminori Kimura

Diagnostics. 2022 May 12;12(5):1212.

論文審査の要旨

卵巣子宮内膜症性嚢胞（ovarian endometrioma：OE）と内膜症関連卵巣癌（Endometriosis-Associated Ovarian Cancer : EAOC）を鑑別する予測指数には Copenhagen Index（CPH-I）、the risk of ovarian malignancy algorithm（ROMA）、R2 predictive index（当産婦人科提唱）があり、本研究では閉経前・後・全年齢層における EAOC を予測する独立因子を後方視的解析により明らかにした。全年齢層では ROMA と R2 predictive index、閉経前では CPH-I と R2 predictive index が独立因子であり、閉経前では R2 predictive index、閉経後では ROMA の鑑別診断精度が最も優れていることを示した。また R2 predictive index が全年齢層での境界悪性腫瘍を予測する唯一の独立因子で精度が最も優れていることを示し、これら 3 つの予測指数の特徴を明らかにした。質疑応答では、MRI 利用による鑑別の新しい研究、嚢胞液鉄濃度と細胞質・ミトコンドリア内鉄濃度の関係、R2 predictive index の変数（腫瘍径と CEA）の意義、境界悪性腫瘍と EAOC を区別の意義、CPH-1 と ROMA を R2 predictive index に合わせた診断アルゴリズムの作成、外部検証について質問し、それぞれ適切に回答した。本研究成果は OE と EAOC の鑑別と治療選択において意義が高く、より高精度な診断アルゴリズムの構築など今後の発展も期待される。公聴会での発表・質疑応答は適切で、3 名の審査員全員が学位論文に相応しい研究であると判断した。

参　考　論　文

1. A Novel Predictive Tool for Discriminating Endometriosis Associated Ovarian Cancer from Ovarian Endometrioma: The R2 Predictive Index
Naoki Kawahara, Ryuta Miyake, Shoichiro Yamanaka, Hiroshi Kobayashi
Cancers. 2021 Jul 29;13(15):3829.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに女性生殖器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和５年３月７日

学位審査委員長

泌尿器病態機能制御医学

教授　　藤本　清秀

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

教授　　田中　利洋

学位審査委員（指導教員）

女性生殖器病態制御医学

教授　　木村　文則